

クラシック名曲名盤コンサート・モーツァルト

1783年3月23日ウィーン公開音楽会の再現

ピリオド楽器によるモーツァルトの典雅な響きをお楽しみいただきます。
それ以上に特筆すべきは、貴族・特権階級の専有物だった器楽コンサートが、18世紀後半に至ってようやく市民階級に普及し始めた時期のコンサートの再現です。その後のコンサートプログラムの変遷や、交響曲の地位の変化に思いを馳せましょう。

《曲目》(いずれも W.A.モーツァルト作曲)

1. 序曲 (交響曲第 35 番ニ長調 K.385 「ハフナー」より第 1 楽章)
2. オペラ「イドメネーオ」よりアリア「父を失うなら」(ソプラノ独唱)
3. オペラ「ルーチョ・シッラ」K.135 よりレチタティーボ「ただのひとときで、ああ」とアリア「行きましょう、急いで」(ソプラノ独唱)
4. ピアノ協奏曲第 13 番ハ長調 K.415 (作曲者の独奏)
5. 鍵盤独奏のための小さなジグ K.574 (同上)
(休憩)
6. セレナードニ長調 K.320 「ポストホルン」の協奏曲楽章 (アンダンテ・ジョコーズ)
7. グルックの「メッカの巡礼」の主題による変奏曲 K.455 (作曲者の独奏)
8. レチタティーボ「ぼくのいとしい希望のかた！」～ロンド「ああ、どれほどつらいことだろう」K.416 (ソプラノ独唱)
9. 終曲 (交響曲第 35 番ニ長調 K.385 「ハフナー」より第 2～4 楽章)

《補足》

- ①演奏会の日付に関しては、3月22日という説もあります。
- ②「ハフナー」交響曲の演奏順についても諸説があります。
- ③実際の演奏会では、他に「ピアノ協奏曲ニ長調 K.175」「パイジェットの主題による変奏曲 K.398」「(即興の) 小さなフーガ」が演奏されていました。

《演奏者情報》

レオナルド・ガルシア・アラルコン指揮

ミレニウム・オーケストラ（古楽器使用）

セバスティアン・ヴィーナント（fp. ウィーンのヴァルター1795年モデル）

ジョディ・ドヴォ（ソプラノ独唱）

《録音》

2016年5月、マロンヌ、サン＝ベルテュアン礼拝堂（ベルギー）

（英 Ricercar MRIC361）

【参考】 — 18世紀末から19世紀にかけてのコンサートプログラムの変遷

I：1792年3月23日、ロンドン。所謂「ザロモン・コンサート」

1. 大序曲（ハイドン作曲）（おそらく交響曲第93番ニ長調と思われるが、別の可能性も）
2. 歌（アルベルタッリ氏）
3. 弦楽器のための四重奏曲（カンビーニ作曲）
4. オペラのシェーナ（コッリ嬢）
5. 新作のヴァイオリン協奏曲（ヤニエヴィチ氏）
（休憩）
6. 新作の大序曲（ハイドン作曲）（交響曲第94番ト長調「驚愕」）
7. オペラのアリア（カリアーニ氏）
8. ペダル付ハープのための協奏曲（ドゥシェック作曲）
9. 三重唱（コッリ嬢、カリアーニ氏、アルベルタッリ氏）
10. フィナーレ（上記の交響曲のどちらかのフィナーレをアンコールとして）

II：1808年12月22日、ウィーン、アン・デア・ウィーン劇場

1. 田園生活の思い出という題の交響曲（初演）（交響曲第6番ヘ長調「田園」）
2. アリア「ああ不実な人よ」
3. 独唱と合唱によるラテン語の頌歌
4. ピアノ協奏曲ト長調（演奏ベートーヴェン）
（休憩）
5. 大交響曲ハ短調（初演）（交響曲第5番ハ短調）

6. ラテン語による聖歌
7. ピアノ独奏（ベートーヴェン）
8. ピアノ独奏つきの合唱幻想曲

Ⅲ：1830年12月5日、パリ、パリ音楽院（指揮：アブネック）

1. オペラ「秘密裁判官」序曲
2. カンタータ「サルダナパルの死」
3. 幻想交響曲（初演）

Ⅳ：1840年10月6日、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス
（指揮：メンデルスゾーン）

1. マルシュナー オペラ「吸血鬼」序曲
2. ベルリーニ オペラ「清教徒」よりアリア
3. ダーフィット ヴァイオリンのための小協奏曲
4. ベルリーニ オペラ「ノルマ」よりアリア
5. ベートーヴェン 「英雄」交響曲

Ⅴ：1877年12月16日、ウィーン、楽友協会ホール
（指揮：1～5 ヘルメスベルガー、6 ブルックナー）

1. ベートーヴェン エグモント序曲
2. シュポーア ヴァイオリン協奏曲第9番
3. モーツァルト オペラ「フィガロの結婚」より2つのアリア
4. ヴィンター オペラ「中断された犠牲の祭り」よりアリア
5. ベートーヴェン カンタータ「静かな海と楽しい航海」
6. ブルックナー 交響曲第3番（第2稿）（初演）

以上、大野真澄